

# 宇城郡市中体研

理事長 井上 淳一

## 1 はじめに

宇城中学校体育研究会は中島仙一郎会長（松橋中学校）を中心に11校の体育担当者24名で組織されており、11校中8校は体育担当者が1名の小規模校である。

昨年までと同様に「主体的・対話的な学びを通して、分かる・できるを味わうことのできる保健体育学習の在り方」の研究テーマを設定し、「めあて」と「振り返り」を大切に授業づくりをおこなった。また、「スキルウォームアップ」「言語活動」「グループ学習」を効果的に行うことを継続し、研究を深めることに取り組んだ。

## 2 研究組織

会長 中島 仙一郎校長 (松橋)	副会長 田中 繁蔵校長 (住吉) 寺本 洋一校長 (小川)	宇城郡市長 井上 淳一 (宇土)	宇城郡副理事長 中本 英次 (不知火) 今田 圭哉 (中央)
------------------------	-------------------------------------	---------------------	--------------------------------------

研究授業部会	岩田 (住吉)、宮川・岡村 (小川)、一ノ口 (豊野)、今田 (中央)、齋藤 (砥用)
学習カード部会	上村・岡本・鋤崎・田上・原 (鶴城)、西村 (住吉)、濱 (網田)、井上 (宇土)
スキルウォームアップ部会	川端・田口・桑机・松川・林田・有田 (松橋)、中本 (不知火)、野田・犬童 (三角)

※全会員が三部会（研究授業・スキルウォームアップ・学習カード）に分かれて研究を進める。

## 3 活動状況

会議	期日	内容
1 第1回教科等研	4月23日(火)	研究組織編成・テーマ決定・年間計画 授業者決定 会場：松橋中学校
2 第2回教科等研	7月25日(木)	体育実技講習会(鶴城中学校：田上大太郎教諭) 各部会活動 会場：鶴城中学校
4 第3回教科等研	11月11日(月)	授業研究会(小川中学校：岡村千春教諭) 会場：小川中学校
5 県中学校保健体育研究発表大会	11月22日(金)	阿蘇市 会場：阿蘇市立一の宮中学校

## 4 研究テーマ

「主体的・対話的な学びを通して、分かる・できるを味わうことのできる保健体育学習の在り方」  
～「めあて」と「振り返り」を大切に～

## 5 研究の概要

### (1) 実技講習会

講師 田上 大太郎 教諭 (鶴城中学校) 単元「水泳」

体育実技講習会では水泳を取り上げ、鶴城中学校の生徒に協力をお願いし、授業形式の講習会を実施した。「体ほぐしの運動」の趣旨を踏まえた水慣れやジャンケンゲームの導入、平泳ぎや背泳ぎ、バタフライなどの基本的な技能を習



得させるための例などが紹介された。特にバタフライでは身体のうちねり動作とうねり動作に合わせたキック練習、片手ストロークから両手ストロークへと段階を上げていく練習法が行われた。実際に授業を実践していく上において、大変貴重な学びの機会にすることができた。



## (2) 公開授業及び授業研究会

授業者 岡村 千春 教諭 (小川中学校) 単元「球技：ハンドボール」

本時の目標…守る人のいないところに動いてシュートをねらう。

### ○生徒の主体的な取り組みを促す工夫

ボールを持っていない生徒が積極的に動き、パスコースをつくる動きが高まるよう、サークルゲーム (相手ディフェンスをかわしながら、指定した回数パスをつなぐ) に取り組んだ。(資料①)

### ○基礎・基本を高めるための4つの視点

- ・パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くこと
- ・ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをする
- ・マークされていない味方にパスをすること
- ・ボールを持っている相手をマークすること



資料①

### ○目標達成するための手立て

- ・攻撃側が数的有利になるように人数設定をおこなった。
- ・チームでの学び合いの時間として、作戦タイムの時間を設定した。互いの考えや改善点を伝え合うことができた。

○言語活動について数的有利な状況からどのように攻撃するか作戦を立て、互いに伝え合うことで個人の理解を深めることができた。また、チーム内で学習したことを全体への発表につなげた。(資料②)



資料②

## 6 まとめ

研究テーマを意識した実技研修や授業研究を実践することで、生徒同士が関わりを持ちながら達成感や充実感を味わい、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現できるよう意識した学習を進めることができるようになっていっている。生徒は毎時間のめあてを達成するために必要な練習のポイントを意識し、学習を進めることができている。このことは課題を解決するために必要なポイントを「分かって、できる」ことにつながっていくと考える。

また、ペアやグループ活動等を通して主体的・対話的な学びができるよう授業展開を工夫することは、生徒の学習意欲を高めたり、より良い人間関係をつくる上においても大切なことである。今後も各学校において授業研究を中心とした実践を積み重ね、「主体的・対話的な学びを通して、分かる・できるを味わうことのできる保健体育学習の在り方」を意識した授業展開の工夫・改善を継続していきたい。